



創造・参加・実践



West · Bus News

西日本旅客鉄道労働組合本部
〒530-0012
大阪市北区芝田2丁目1番18号西阪急ビル8F
TEL(06)-6373-0315
emai: bus@jr-westunion.jp
発行責任者 矢田 尊弘
編集責任者 細川 由紀夫



新年あけましておめでとうございます
組合員の皆様ならびにご家族の皆様におかれましては、健やかに2026年の新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。旧年中は、西バス地方本部の諸活動に対し、格別のご理解とご支援を賜りましたことに、深くお礼申し上げます。

◆能登半島地震から2年、復興は道半ば
2024年元旦に発生した「令和6年能登半島地震」から、まもなく2年を迎えます。被災地域では、住宅の再建や基盤インフラの復旧がなお十分とは言えず、「生活再建」への道のりは依然として厳しい状況にあります。改めて被災された皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、「一日も早い真の復興を祈念いたします。

◆万博輸送をはじめ、地域交通の重要性が顕在化した1年
2025年は、大阪・関西万博の開催準備を軸に、地域輸送、観光輸送に対する社会的関心が一段と高まった一年でした。人流の一回復は進む一方で、深刻な運転士不足や高齢化など、バス産業の課題は一層明確となりました。こうした状況下でも、組合員一人ひとりが輸送の安全とサービスの維持・向上に尽力されました。その取り組みにあらためて敬意を表します。さらに大阪・関西万博の無事故完遂と組合員の献身的な努力に報いる措置として、「一律10万円の年末一時金の支給がされました。

◆労使の取り組みで万博輸送体制が前進
万博輸送に向けた体制整備では、営業収益が前年同期比で約3億円増、最終利益は2億円以上の増益となり、着実な経営改善が確認されました。これは構造改革の成果であると同時に、厳しい状況下でも現場を支え続けた組合員の皆様の努力がついています。

◆中間決算は増収増益、組合員の努力が結実
2025年度中間決算では、営業収益が前年同期比で約3億円増、最終利益は2億円以上の増益となり、着実な経営改善が確認されました。これは構造改革の成果であると同時に、厳しい状況下でも安全最優先の輸送体制が徐々に整い、社会的信頼の確立にもつながっています。

◆2025春闘の成果 「人財への投資」が着実に前進
2025春闘では、若年層および60歳以上の方の待遇改善に重点を置き、昨年に統くベースアップ1,000円、年間臨給4・7箇月(年末一時金を合わせると5・11相当)を確保しました。

これらは、長期にわたり我慢を強いられてきた現場の声に応える重要な成果であり、「人財への投資」の具体化に向けて、労使協調の意義を示すものとなりました。

◆2026春闘賃上げの継続・底上げの定着
これらの成果を過渡性とせず、2026春闘では「賃上げの継続・底上げの定着」「離職防止と人財確保」「働き方改革の深化」を柱に掲げ、さらなる処遇改善をめざさねばなりません。

これまで会社の再建をめざし、減便・減車、ダイヤ見直し、職場再編など、物価高が続くなかった実質賃金の上昇と生活の安定、働きがい向上を実感できる水準の確保は労働組合の責務です。春闘は労働組合の意義を社会に示す重要な取りです。すべての組合員が職場から声を寄せ、仲間の思いを力に変えて、全員参加型の2026春闘を構築していきましょう。

◆構造改革から「成長への転換期」へ
これまで構造改革を労使で進めてきました。その中で、地域交通を守るという使命のもと、現場を支えてきたのは組合員の皆さんに他なりません。

命の暮らしに向けた新たな取り組みが求められます。

◆人財確保は最重要課題
運転士・整備士の確保は喫緊の課題です。緊急異常事態と言つても過言ではありません。コロナ禍以降、離職者の増加や他産業との採用競争が激化する中、待遇改善と労働環境整備は急務です。労使で「人財確保プロジェクト」を強化し、労働時間の適正化、休暇取得の促進など、現場から信頼される制度づくりを引き続き進めています。

「将来に希望をもてる、誇りあるバス産業」の確立に向け、次世代へ引き継ぐ土台づくりを進めます。

新しい年を迎える挨拶を申し上げます

新年以来ましておめでとうございます
組合員の皆様ならびにご家族の皆様におかれましては、健やかに2026年の新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。旧年中は、西バス地方本部の諸活動に対し、格別のご理解とご支援を賜りましたことに、深くお礼申し上げます。

◆能登半島地震から2年、復興は道半ば

2024年元旦に発生した「令和6年能登半島地震」から、まもなく2年を迎えます。被災地域では、住宅の再建や基盤インフラの復旧がなお十分とは言えず、「生活再建」への道のりは依然として厳しい状況にあります。改めて被災された皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、「一日も早い真の復興を祈念いたします。

◆万博輸送をはじめ、地域交通の重要性が顕在化した1年

2025年は、大阪・関西万博の開催準備を軸に、地域輸送、観光輸送に対する社会的関心が一段と高まった一年でした。人流の一回復は進む一方で、深刻な運転士不足や高齢化など、バス産業の課題は一層明確となりました。

こうした状況下でも、組合員一人ひとりが輸送の安全とサービスの維持・向上に尽力されました。その取り組みにあらためて敬意を表します。さらに大阪・関西万博の無事故完遂と組合員の献身的な努力に報いる措置として、「一律10万円の年末一時金の支給がされました。

◆労使の取り組みで万博輸送体制が前進

万博輸送に向けた体制整備では、営業収益が前年同期比で約3億円増、最終利益は2億円以上の増益となり、着実な経営改善が確認されました。これは構造改革の成果であると同時に、厳しい状況下でも安全最優先の輸送体制が徐々に整い、社会的信頼の確立にもつながっています。

◆中間決算は増収増益、組合員の努力が結実

2025年度中間決算では、営業収益が前年同期比で約3億円増、最終利益は2億円以上の増益となり、着実な経営改善が確認されました。これは構造改革の成果であると同時に、厳しい状況下でも安全最優先の輸送体制が徐々に整い、社会的信頼の確立にもつながっています。

◆2025春闘の成果 「人財への投資」が着実に前進

2025春闘では、若年層および60歳以上の方の待遇改善に重点を置き、昨年に統くベースアップ1,000円、年間臨給4・7箇月(年末一時金を合わせると5・11相当)を確保しました。

◆2026春闘賃上げの継続・底上げの定着

これらの成果を過渡性とせず、2026春闘では「賃上げの継続・底上げの定着」「離職防止と人財確保」「働き方改革の深化」を柱に掲げ、さらなる処遇改善をめざさねばなりません。

◆人財確保は最も重要な課題

運転士・整備士の確保は喫緊の課題です。緊急異常事態と言つても過言ではありません。コロナ禍以降、離職者の増加や他産業との採用競争が激化する中、待遇改善と労働環境整備は急務です。労使で「人財確保プロジェクト」を強化し、労働時間の適正化、休暇取得の促進など、現場から信頼される制度づくりを引き続き進めています。

◆2026年は「安全再構築の年」

安全の確立は輸送産業の原点であり使命です。2026年は福知山線列車事故から20年目の節目に当たります。昨年も、携帯電話操作による事故など、基本ルール逸脱による事象が発生しました。

◆だからこそ、「A・あたりまえのことを、B..

バカにせず、C..ちゃんとする」というABC運動を職場に再徹底し、一度と同種事故を繰り返さない取り組みが重要です。安全は習慣の積み重ねで、不断の努力なくして守れません。

◆現場で安全最優先の意識をいつそう高め

2026年を「安全再構築の年」と位置づけていきましょう。

◆組織活動の再活性化

コロナ禍を経て、仲間同士の交流が再び広がっています。昨年2月のJR京都駅ビル大階段駆けあがり大会、4月のボウリング大会では多くの仲間が参加し、つながりを深めました。

◆組織活動の再活性化

こうした横断的な交流は組合運動の原点であり、活動を支える力です。引き続き、地域ごとに多様な取り組みを開拓し、「この組合に入つてよかった」と実感できる組織づくりを進めます。

◆政策実現へ推薦候補の完全勝利に向けて

第27回参議院選挙においては、西バス組合員の皆様に心より感謝申し上げます。また今後予定される各選挙において、引き続

けた取り組みを一層進めてまいります。地方本部が支援した候補者を含め、JR西労組推薦の多くの候補者が当選を果たし、大きな成果を挙げることができました。ご支援いただき、組合員の皆様に心より感謝申し上げます。また今後予定される各選挙において、私が推薦する候補者全員の勝利に向かって、引き続

けた取り組みを一層進めてまいります。

2026年は、異なる高速線輸送、一般線観光輸送に加え関連事業など多様な局面で私たちの役割が問われる一年となります。社会が大きく動く時だからこそ、現場の最前线で確かな輸送と安心を届ける存在であり続けることが重要です。

最後に、組合員並びにご家族の皆様が健康で充実した一年を過ごされますことを心よりお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

西日本旅客鉄道労働組合本部
西バス地方本部 役職員

執行委員長 矢田 尊弘

副執行委員長 下橋 勇太

副執行委員長 黒田 真吾

書記長 笹井 紀幸

書記次長 永易 正嗣

執行委員 織田 豊

執行委員 山口 裕之

執行委員 清水 智裕

執行委員 細川由紀夫

執行委員 岸田 勉

執行委員 佐伯 尚美

執行委員 増田 浩之

執行委員 古川 墓

執行委員 上窪 輝

執行委員 岡田 将馬

特別執行委員 岸田 浩之

会計監査員 荒木 寛之

会計監査員 山口 将弘

職員 富原 千佳

支部職員 立壁 知里

